

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、きょうご出席予定の委員の方がそろいましたので、始めさせていただきます。 ・今日は、河川レンジャー制度運営委員会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。ただいまから第51回河川レンジャー制度運営委員会を開催させていただきます。 ・私は、昨年度から引き続きまして当委員会の事務局を担当させていただきます島中と申します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。 ・きょうの委員会ですけれども、委員の出席は4名となっております、委員総数6名の過半数以上の出席を得ておりますので、委員会規約第8条の定めによりまして成立しておりますことをまずご報告いたします。 ・また、会議に先立ちまして、お手元の資料の確認でございます。配布資料といたしましては、まず第51回委員会の議事次第です。資料1としまして、委員の皆様の名簿でございます。資料2-1から2-3といたしまして、根木山レンジャー、北村レンジャー、眞田レンジャー、それぞれの年間活動計画書をつけております。また、資料2-3補足資料として眞田レンジャーの活動計画の補足資料もあわせて添付させていただいております。それから、資料3といたしまして委員会の年間運営スケジュール(案)をおつけしております。配布資料は以上でございますけれども、お手元の資料に不備などございましたら、お申しつけください。大丈夫でしょうか。 ・それでは、着席して進めさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員紹介	△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・本委員会は、今年度、平成29年度の初回の委員会になりますので、改めまして、委員の皆様には少し自己紹介をしていただければと思っております。簡単に、お名前とご挨拶をお願いできればと思います。 ・それでは、中谷委員のほうから時計回りでお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷です。よろしくお願いいたします。NPOのリバプレなどをしております。これまでの経験を生かしながら、新たな展開といえますか、レンジャーの活動など勉強をさせていただいております。そういう面でことし一年よろしくお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・平山奈央子です。ご出席の皆様をお待たせしてしまい申しわけありませんでした。私は、2006年の制度が始まって以降、河川レンジャーとして10年ほど活動しました。現場で地域の声を聞きながら行政と連携をしていくという流れを一通り経験していたということも踏まえこちらの委員会では

		かお役に立てることがあればと思っています。どうぞよろしくお願ひします。
	大野	・金沢大学の太野です。遠いところからになりますが大、よろしくお願ひいたします。
	北井	・住民委員として参加しています北井と申します。1月に転居しまして、住みかが草津川沿いになりました。実生活では川の近くに住まうということはないが、河川レンジャーに新たなアイデアとして持ってくるものがあればいいなと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・4名の委員の皆様には自己紹介をしていただきまして、ありがとうございます。 ・資料1の名簿をごらんいただきますと、行政委員として滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室長の橋本委員、それから国土交通省琵琶湖河川事務所の山口委員が委員として就任されておまして、全6名で委員会を進めさせていただきたいと思っております。 ・きょうは、行政職員の2名の委員におかれましては、所用のためご出席いただけないということで欠席のご連絡をいただいております。よろしくお願ひいたします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 委員長・副委員長選出	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、議題3の「委員長・副委員長の選出」に移らせていただきたいと思ひます。 ・委員長・副委員長の選出につきましては、例年、前年度の委員会の委員長にその選出の進行役をお願いしております。よろしければ、昨年度委員長の中谷委員には今年度も委員としてお務めいただけますので、その委員長・副委員長の選出の進行役をお願いしたいと思ひのですが、皆様、いかがでしょうか。(「お願ひします」の声あり) ・それでは、委員の皆様から異議なしのお声がありましたので、中谷委員のほうで委員長・副委員長の選出の進行をお願いできればと思ひます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、進めさせていただきます。 ・まず、立候補といひますか、していただく方がおられましたらお伺ひしてと思ひますが、いかが取り計らいましょか。
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・すいません。私の説明不足です。まず選出方法は、委員会規約第7条におきまして委員長・副委員長とも互選によって定めるということでございますので、自薦他薦を問わず、それぞれが「この方が」といひ方をお決ひいただければといひことを補足させていただきます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。自薦他薦を問わずといひことですのでいかがでし

		ようか。
	北井	・では、他薦で。中谷委員に引き続きお引き受けいただけたらと思っております。
	中谷	・というお声をいただきましたが。
	大野	・私も賛成です。
	平山	・お願いします。
	中谷	・そういうことでしたらお受けさせていただきます。ご協力をよろしく 願います。 ・副委員長も同じやり方ですね。
	△島中	・はい、そうです。
	中谷	・言ってもらったからということではないですが、「住民」というジャンル から委員に就任されている北井さんに副委員長をお願いしたいと思いま すが、いかがでしょうか。
	平山	・お願いしたいです。
	大野	・賛成です。
	中谷	・そうしましたら、委員長は中谷、副委員長は北井ということで決めていた いただきましたので、よろしくお願いたします。
	△島中	・早速お決めいただいて、ありがとうございます。それでは、今年度、平成 29年度の河川レンジャー制度運営委員会につきましては、委員長を中谷委 員、副委員長を北井委員に就任していただけるということで、どうぞよろ しくお願いたします。 ・そうしましたら、委員長におかれましては前の席に移動していただき たいと思います。よろしくお願いたします。
	中谷	・それでは、改めまして、委員の皆様、ご出席ありがとうございます。51回 目ということになりますが、議事次第にのっとり進行します。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 河川レン ジャー任命式 ※山口委員、 ここから出席	中谷	・4番目になりますが、「河川レンジャー任命式」ということで、事務局か ら進め方を説明いただけますでしょうか。
	△島中	・わかりました。それでは、今年度4月から活動をスタートさせております 根木山レンジャー、北村レンジャーの任命式を今からとり行いたいと思 いますので、お二人におかれましては前のほうにお願いします。 ・お二人は、平成29年3月、ことしの3月に開催されました第50回制度運営 委員会におきまして河川レンジャーに応募され、合格されました。2人 とも前期に続きまして河川レンジャーを担っていただくということになり まして、既に4月から活動を開始しておられますが、この委員会のタイミ ングに合わせて任命書の交付をさせていただきたいと思っておりますので、よろ

	<p>しくお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、根木山レンジャーからお願いいたします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・任命書 根木山恒平様 琵琶湖河川レンジャーに任命します 期間 平成29年4月1日から平成31年3月31日まで 平成29年6月6日 河川レンジャー制度運営委員会 委員長 中谷恵剛 ・よろしく申し上げます。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、続きまして、北村レンジャー、お願いいたします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・任命書 北村美香様 琵琶湖河川レンジャーに任命します 期間 平成29年4月1日から平成31年3月31日まで 平成29年6月6日 河川レンジャー制度運営委員会 委員長 中谷恵剛 ・よろしく申し上げます。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。（拍手）
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・お二人とも継続ということで、それぞれ地域といい関係を築いてもらっていますし、ことしの活動でそういった輪が広がりつつ、深みが増してくるといいなというふうに期待しておりますので、どうぞよろしく申し上げます。
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたらお二人からも一言ずつ抱負を述べていただけたらと思います。よろしく申し上げます。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・5年目の活動になります根木山です。活動が5年目になり、引き続き守山の中洲地区で「野洲川の川守りをつなぐ」ということで活動したいと思っています。河川事務所と守山市の事業の中で状況も進展しているので違うチャレンジになるかなと思っていますが、できるだけいつなぎ役になれるよう頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。（拍手）
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・北村です。私は3年目になります。河川に関する地域の記憶や写真資料を少しずつ集め残し、それを次世代に伝える活動を続けている中で、新しい展開や広がり、また伝えていく先も、少しずつですけれども、子どもから年配の方まで広がりを見せてきているのではと感じています。これまでの活動を同じく継続しながら、今度は発信していく活動にも重点を置いて今期は頑張っていきたいと思います。よろしく申し上げます。（拍手）
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。それでは、これで、任命式を終わりたいと思います。お二人のレンジャー、今期もよろしくお願いいたします。では、席の

		ほうにお戻りください。
--	--	-------------

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 審議 (1)河川レンジャー年間活動計画(案)の承認について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。では、次の審議事項ですが、「河川レンジャー年間活動計画(案)の承認について」ということで進めます。事務局から進行と説明をお願いします。
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、説明をさせていただきます。配布資料の2-1、2-2、2-3に基づきましてこれからご審議をいただきたいと思います。 • 根木山レンジャー、北村レンジャー、眞田レンジャーの3名から年間活動計画書の案が提出されております。この内容につきまして承認または非承認のご審議をお願いしたいと考えております。 • これから順番に、説明時間5分程度、質疑応答及び審議に関しましては10分程度行っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。 • それでは、根木山レンジャーから、提出していただいた年間活動計画書に基づきまして、その内容の要点を5分程度でご説明いただければと思います。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> • 先ほどもお伝えしましたように、5年目の活動になります根木山です。よろしく願いいたします。 • テーマは引き続き「野洲川の川守りをつなぐ」ということで活動したいと思っています。計画書はすでに提出させていただいているので、簡単に5年目の課題を整理したいなと思っています。 • 守山の中洲地区は、現在、守山市と国交省による、かわまちづくりということで、中洲小学校横の部分で親水公園として整備が進んでいます。既に部分的に暫定供用開始されており、一部利用が始まっています。ことし、第2期、第3期工事が進んで完了する予定になっています。それに伴い地域のほうで守山市活性化プランに基づき、学区を挙げた利活用の検討が行われています。 • 私のほうは、2年前から、やすたんという住民有志のグループをつくって、整備されたところで子どもたちが活動できるための大人の見守りの場をつくるという仕組みを支援し、住民の方々と一緒に活動してきました。これまで2年間は私のほうで主導してきましたが、この後2年間は住民主体で運営していけるようにということで、今年度は運営方法をシフトしていくことに取り組みます。 • あと、中洲学区の野洲川プロジェクトにもかかわってしまっていて、今年度はそこにより深くかかわって活動していくことになりそうです。状況としては、学区と市役所のほうで維持管理に関する覚書が締結されたようで、割と粛々と維持管理をしていこう、という雰囲気になってきているので、思

	<p>ったよりもスムーズに行くのかなと。むしろ、住民の人たちが「野洲川の公園ができてよかったな」と思える利用のあり方をしっかりつくっていくことが大事なのかなと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと、新しい課題としては、守山市で自転車道の整備をされました。今、管理用道路を守山市が占有するような形で整備が進んでいます。こういった利用が入ってくると、ビワイチで自転車利用の人が琵琶湖岸から野洲川を上がってくることが想定されます。地域の外から、観光利用というか、新しい人が入ってくる可能性があり、そこを地域の中でどう受け入れるのかということがあり、今後情報提供が始まってくると思うので、その辺のつながりはどうなっていくのかということが新しい課題だと思っています。 ・2年間のスタートなのでどうなっていくのかなというところですけど、2年後にしっかりと住民主体の利用と維持管理に参加している姿が目指すべき姿で、それをうまく実現していけるように活動しようと思っています。ポイントとしては、学区として維持管理と利活用の相乗効果でいい流れができるように役割を果たしたいと思います。新しい課題としては、管理用道路の整備が進んで、それが地域の活性化にもいい流れになるといいなという思いを持ちながら、地域の方の声も聞いていきたいと思っています。 ・以上になります。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。根木山さんに発表していただきましたが、委員の皆様から何かご意見、質問がありましたら、どうぞご発言ください。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・質問をいいですか。学区の活動とやすたんの活動が違うのかということと、同じように利活用のための活動とおっしゃっていたように思いますので、学区とやすたんの関係性を「今はどうで、どうしていきたいのか」ということがあれば教えてください。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・やすたんは住民有志で、中洲学区の住民に限らないメンバーで、中洲の人が少ないという割合で活動をしています。2月に「一緒にやることもできますが」という相談をしたのですが、ひとまず別で活動したいというのがやすたんの今のメンバーの意向だったので、別でスタートしましょうということになりました。 ・学区は、学区を挙げての取り組みになって、市役所の補助もあり、学区民に対する便益みたいなものをいかにつくっていくのかというところが議論になってきます。その辺は議論のスタートが違うので分けています。将来的にも別々でもいいのではないかと考えています。多様な利用があるということが大事だと思うので、学区は学区で利用していて、住民有志は住民有志で利用していると。ただ、連絡がとれているほうがいいと思うので、今後、自転車利用など地域外から来る方々も含めて利用者がふえていけば、そういう場が必要になってくるのかもしれないと思っています。

平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。コメントで、利用者がふえてきたときに「こういう利用はいいけど、何となくこういう利用は嫌だ」というところがあり出てきたら、やはりそれぞれでというわけにはいかず、同じ場所を使っている人たちで話し合いをしなければいけないのではと想像します。今後、根木山さんがコーディネーターとして活動しなくなっても、お互いの情報を知っているという状況ができるといいのではと思いました。以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。ほかの委員の皆さまはいかがでしょう。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの蓄積の上の計画で、とても興味深く聞かせていただきました。 ・その上で1つお聞きしたいのが、今年度河川レンジャーとして活動されていくに当たって、例えば支援室や河川管理者の側からこういう支援があったらいいとか、こういうサポートがあったらいいというふうに計画を考えていく中で感じられたようなことがもしあれば教えていただけますか。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。説明が不十分で、そこに触れられていなかったのですが、昨年度から利用者のヒアリングをおこなっています。自分だけではできない部分については支援室に技術的な支援をいただいているのでありがたいなと思っています。今年度もまたご協力を仰いでやれたらなと思っています。 ・あと、きょう全く説明できなかつたのですが、河口部のヨシ帯の取り組みも、既に春季調査は終わっていますが、一定活動はさせていただくつもりです。そこに関しても、今年度から、去年の年末の報告会で「1人だとやり切れないしんどさがあります」とお伝えしたことを踏まえて、支援室から現場に人を出していただけて協力いただけているような状況です。今後、ほかのレンジャーも一緒にやっていくみたいなことを模索したいと思っていますので、その辺は支援室を頼りながら活動できたらと思っています。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにはいかがでしょう。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・では、質問します。活動としては3期目で、それぞれのときに立てた目標を順調に達成してこられているなと思いながら拝見していました。 ・やすたんの活動は昨年の年度末にエコクラブで大賞を受賞され盛り上がっていたと思いますし、住民主体にシフトして、中洲学区の活動に根木山レンジャーの注力を移動させていくということはよいタイミングで、うまく目的に合った動き方が取れているのではと思っていたのですが、やすたん自体は、中核メンバーの方や新たに入ってくる方など、運営状況としてはどういう感じなのかということと、今後独立して続けていけそうな雰囲気なのかどうかということをお教えしてもらいたかったです。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・東京に行かせていただくにあたり東京に行くための切符や宿の手配を保護者の方がライングループをつくって相談しながら全部保護者の方がして

	<p>くださったのがすごくよかったです。それは楽しいからしてくださったのですが、結果的にいいチームができてきました。今年の運営もこの間の日曜日から始まりましたが、いろんな準備やそれぞれの役割を自然体でしてくださるので、いい流れだと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「河川行政と連携した活動を」と言うと、もしかすると河川レンジャーが必要になるかもしれませんが、野洲川のフィールドを使って子どもたちの遊ぶ場所をつくるというような活動は、多分、2年間続けていけば、河川レンジャーがいなくてもできるようになるのではないのかというふうに思っています。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかによろしいでしょうか。 ・では私から。どちらかというコメントですが、維持管理がうまくつながりそうという話がありましたが、地域性といいますか、自治会長がリーダーシップをとれば、うまくいくところがあるのではないかと聞いていました。 ・今のやすたんにも関係する話ですが、みんながそれぞれ楽しいと感じると、自分たちでやっていこうとなる。やすたんにしろ、そうやってかかわっている人の人数、あるいは、指標を人数と捉えるのであれば、その地域にどれぐらいの人がいてかかわりを持っているかや、子どもたちもいずれ大きくなると、卒業する人が出てくる。まだまだリーダーシップをとって引き継いでいこうという部分もあると思うので、その辺を目配りしながら、そういうところもつかみながらやっていただくといいのかなと思いついて聞いていました。 ・あと、いい場所ができると、SNSであつという間に広がるので、「ここは地元のもの」「ここは地元が使うのものだ」と思っている、例えば他からたくさん遊びに来るなど。この間も下流の三川合流にある「さくらであい館」へ行ってきたのですが、駐車場が満杯になるぐらい人が集まっていました。そういうような状況になったとき、占有は守山市がするのだけど、その辺の使い道、使い勝手のコントロールを今のうちから想定して、地元の人にも心づもりをしているほうがいいのではと思います。参考にさせていただければというところです。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。多分、そこは課題になってくると思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにかがででしょうか。山口委員、何かありませんか。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・除草の担い手を発掘していきたいと思っています。それはこれからこういった活動をしながら人をふやしていくとして、我々として、今は水辺に立ち寄りにくい状態まで草が繁茂してしまっているので、とりあえず人が寄りやすい導線を引こうかと考えています。そういったことを押し込んでいくときにどのような観点から動いていったらいいか、そういうことを徐々に資料をいただけたらと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・あと、住民の方は別にしていただいています、工場に働きに来ている人たちがいらっしゃるの、今、昼間人口が何とかならないかなと思っています。最近、CSRでいろいろな取り組みをされていますよね。信用金庫の方がブルーギルを釣ったりされていますが、ああいった形で、川の愛護ではないですが、維持管理活動に貢献してくれるような企業を探せないかと思っています。住民はある程度参加いただいています、新たに、昼間人口といいますか、働きに来てくれている人たちを取り込めないかと思っていますので、活動に絡ませる意味でも、その辺の突破口や見えるものがあれば念頭に置いていただけたらと思います。 ・どこかの町では、条例ができて、投票権を与えています。この辺りの地域はまだ横ばいで、一流企業の工場がありますので、そういったところの企業活動というのは本当に大事で、そういった方たちを巻き込みたいと思っています。その辺もご尽力いただけたら助かりますので、よろしくお願いします。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアとしては、占用区間だけではないエリアも含めてのことをおっしゃっているということですね。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・一時期、企業の水防団のようなものを仕掛けたことがありますが、そういう方面から別の刺激があると、維持管理とともに一体化してくるかもしれません。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の清掃などをされている人はいますし、京都のお茶屋さんが、琵琶湖の恵みが大事だからと、琵琶湖の環境保全のためお金と人をかけて出向いかれている。最近企業のそういった責務も浸透しているし、地域貢献というのは地域にとってもPRになるので、刺激しながら。住民は住民でいいのですが、昼間に来ている人たちに目を向けてもらって。最近、失敗と言われているプレミアムフライデーの2時間をこちらに来てもらえたら、何かそういうのをすこし。我々はその辺が不得手なエリアなので、学区の方でもいいし、やすたんの方でもいいし、「これだったら会社としても運動会気分を手伝ってもいいよ」という形で広がっていけばうれしいなど。今、レストランなど、すごく頑張っているのですが、人を呼び込むということをしつつ、「やってやろう」というふうに思わせることも大事だと思うので、その辺も探ってもらえたらと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。そういう面では、いい場所ができてから、余計取っつきやすいかなと。ただの川であれば、単純に「草刈りかよ」ということになるけれど。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。割と注目してくれる人も多いし、大きい意味でチャンスの方だと思っているので、ここで仕掛けて、あちこち展開できたらと思っています。ビワイチに自転車で来る人も多くなっていて、そういうのは逆にいい

	きっかけにしたいので、その辺を念頭をお願いします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。委員の皆さん、ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。 • そうしましたら、特に内容についてどうということもなかったと思います。この計画書でもって承認するというにさせていただきます。よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）では、そのようにさせていただきます。根木山さん、ありがとうございます。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。それでは、次に北村レンジャーから説明をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> • お願いします、北村です。今回パワーポイント等は準備してないので、資料でお配りしています計画書をごらんいただければと思います。 • 事前にお手元に渡っていると伺っていますが、今期もテーマとしては、これまでと同じく、「地域の記憶掘り起こし」と「会話の場の創出」に重点を置いて取り組んでいこうと思っています。 • 昨年度までは、これまで地域の方が身近な河川とどのようにつき合ってきたかを掘り起こしていきたい、そしてそのきっかけとして皆さんがお持ちの古写真を少しずつ集めて、その写真を見ながらお話を進めて記録していくということに重点を置いてやってきました。 • その内容は大きくは変わりませんが、今期は集まってきている情報、成果を少しずつ発信していくほうにもスライドさせていきたいという思いが一番にあります。 • そのきっかけになったのが、昨年度末に参加した淡海の川づくりフォーラムです。そこでこの取り組みを発表させていただいたときに、もっと広げてやっていければいいですや、ぜひ一緒にやっていきたいと情報交換をしたいというお声をたくさんいただきました。また、自分たちのところでもできるような方法を教えてほしいというお声もいただいたので、それを受けまして、地域の方が自分たちで私が今やっているような記憶や情報を残していくような活動ができるように一緒にやり方を作成したり、発信していくようなお手伝いもしていきたいなと思っています。 • 工程計画に書かせてもらったのが、まだ日程等は詰め切れてないのですが、これまでと同じく、ヒアリングや写真の収集は通年通してやっていく計画です。それから、会話の場の創出という形で、集めた写真を一堂に皆さんに見ていただく場を今年度も設置したいと思っています。直近のものでは、7月の1カ月間、滋賀県立琵琶湖博物館の展示空間を予約しました。昨年度に引き続き、支援室に手伝ってもらいながら、河川レンジャーの情報発信も兼ね、活動成果の場として写真展を実施する予定です。また、下半期では、1月にウォーターステーションを使ってできたらいいなと思っ

	<p>ています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、これにプラスして、川づくりフォーラムでいろんな団体と知り合いになりネットワークを広げる機会ができましたので、そういう関連団体さんとの活動やその活動支援も意識しながら活動していこうと思って工程計画の3行目に入れさせてもらっています。これも日にちを切って「何月に何をしていこう」と入れようかなとも思いましたが、各種団体さんの予定が定まっていない状態で、機会があれば、フレキシブルに動けるような体制がとっていければと思って「常時活動」という形にさせてもらいました。 ・最後の周知活動ですけれども、去年すごく勉強になった川づくりフォーラムで1年間の発表ができたらいいなと思っています。それから、琵琶湖博物館から、これは写真展とは別ですが、川づくりフォーラムの成果発表の展示をしてほしいという依頼を受けたので、その場を使ってやっていきたいとも思っています。 ・これにプラスアルファとして、例えば紙芝居など、これまでのレンジャーがかかわってきた活動の成果物がたくさんあります。私と同じような活動をされていたレンジャーも歴代いらっしゃいますので、そういうレンジャーの成果も踏まえながら、より発展させていける形で年末に向けて1年間実施していきたいなと思っています。 ・以上です。ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。そうしましたら、委員の皆様から質問、ご意見等を伺います。どうぞご自由にご発言ください。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。北村さんのビジョンとして、会話をする場、コミュニケーションの場をつくっていくということですが、写真を見て何かそこで話が生まれればいいですが、そうではなく、お互い会って話をしなくても、その人が見て思い出したことや考えていることが残ればいいと思いました。そこに北村さんがいないこともあると思いますし、それらをすべて把握するのは難しいと思います。また、例えば思ったことを貼っていつ残していくとそれに対してそこで思い出したことを貼っていくということであれば、残りますし、そこで会わなくても目で見てコミュニケーションができると思いました。北村さんがいなくても中身を残す方法があればいいと思いました。コメントです。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。附箋にコメントを書いて貼って見てもらうという手法は去年も試行的にしました。7月に琵琶湖博物館で展示をしたときは、来館者数が一年で一番多い時期ということもあって、余り館に負担をかけられないので、常設的に附箋と筆記用具を置くことに躊躇して、私がいるときだけ設置しました。ウオーターでは常時置いて、私がいなくときは支援室に整理を頼んだりしたりしました。

	平山	・すでにされているのですね。
	R北村	・細々ですが。ただ、確かに効率がいいやり方ではないので、もう少しプラスアルファをして、来た人が書きやすいような空間づくりというか、雰囲気づくりを考えたいなと思っていますし、何かいい方法があればぜひ教えてください。
	平山	・今は特にありません。今、それぐらいしか思いつかないです。
	R北村	・もし何かあれば、どんどんやっていきたいなとは思っています。
	中谷	・ほかにいかがでしょうか。
	北井	<p>・川づくりフォーラムの参加に触れていただいて、ありがとうございます。いろんな団体との交流があったことと、北村レンジャーの活動について別の視点から意見を言うてくださる方がいらしたので、活動の価値みたいなものも再咀嚼されるような機会になったらいいなというふうに思っていました。</p> <p>・「関連団体の活動支援およびネットワークの構築」という項目で「常時活動」と書いていただけていますが、これは古写真を使ったヒアリングと絡めたような形で行っていくのか、別の視点を持った河川レンジャーという存在としてかかわるみたいなイメージでいらっしゃるのか、どういう感じのご想像かをもう少し伺えたらと思いました。</p>
	R北村	<p>・ありがとうございます。書面では1行でしか書いていませんが、自分の活動に絡めて、写真に絡めてというのは当然思っています。それから、ありがたいことに一度新聞の取材を受けたのですが、それ以降、私の活動というよりレンジャーそのものに興味を持ってくださる方や、ほかの団体の発表にレンジャーがかかわったということを発表されていたこともあり、写真とは関係ないところで「河川レンジャーと一緒に活動できませんか」という話も来ています。それを、むげにと言ったらよくないですが、「写真に関係ないので」と断ってしまうのは余りにももったいないので、欲張りですが、自分の活動とそれ以外のレンジャーの活動というふうに少し視野を広げて、二本立てでやっていけたら一番いいなと思っています。ただ、自分もイメージできてなかったもので、広くこういう形で書かせてもらいました。</p>
	北井	<p>・わかりました。新聞に北村レンジャーが載って、仕事でかかわっている方から「河川レンジャーって、何してはるの」とか「一緒に何かできるのかな」という声が私の身の回りでもあったりして、その波及効果みたいなものを感じたところです。</p> <p>・もう一つ、地域で写真を使った活動が普及していくようにというふうを書いてあるところですが、私のイメージとして、古写真を使ったヒアリングというのはすこし広がり過ぎていくところもあると思います。今まで集め</p>

	<p>ていても、水辺に関する写真というのは、レジャー関係や風景の写真など、結構ジャンルがあるなど思っていて、活動を始める入り口の素材や、教材のように、こういうところに注力して聞いたらいいですよなど、これを使ったら水辺の写真とともに水辺の景観やヒアリングにつながるといった情報を整理していくとよいと思いながら聞いていました。古写真を使うことで話題が際限なく広がってしまうことが大変ではないかと思ったので、水辺に関するや河川に関するヒアリングの活動というのですこし特色が出るような工夫をしてつながっていけばもっとよいかと思いました。</p>
R北村	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。アルバム一冊をぼんっと渡されることが多く、正直、滋賀県に住まれている方でもその中で河川や琵琶湖が写っている写真は1枚か2枚、下手したらゼロの場合もあります。私は意識的に選ぶのですが、地域の方から自分たちですとなると困るというふうに言われました。 • この間、大阪の方にはお伝えしましたが、まずは楽しい思い出に関する写真。川でも遊びに行った写真は割と残っているので、そういう楽しくて、プラスの思い出として残っているものは記憶にも残りやすいと思うので、まずはそういうものから挑戦してみたらどうですかというふうにはお伝えしています。その結果がどうだったかのかはまだ聞いてないので、そのアドバイスが活かされたのか確認し、次回に反映させたいと思います。ありがとうございます。
大野	<ul style="list-style-type: none"> • 活動内容の最後で今までのレンジャーの成果を活用するとおっしゃられましたが、それはとても大事なことだと思いました。河川レンジャー制度が始まって10年程度あり今までの蓄積があると思いますが、恐らくレンジャーが変わってしまうと、制度として長くつづいているけれど、ノウハウやいろんな意味で資産が蓄積されていないのではという感じがするので、最後におっしゃられた視点はとても大事だというふうに思いました。 • 質問は、先ほど根木山さんにお聞きしたことと同じですが、今年度レンジャーとして活動されていく上で、支援室や河川管理者の方からこういうサポートや支援があったらいいなというふうに思われていることはありますか。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> • まず一番思っているのは、すでにお願ひしているのですが、これまでのレンジャーの成果物をが全て把握できていないこともあるので、知っているものは実際「この活動のデータが欲しい」というお願ひをしています。これまでのレンジャーがしてきたものに関して、支援室や関係している方、これまでのレンジャーの方にいろいろアドバイスをお願ひできたらいいなと思っています。 • それから、河川管理者の方は、直接つながっているということはないのですが、一つ、つながりそうな兆しがあるのが、4月から旧草津川のところ

	<p>に公園ができたのですが、そこの指定管理業者である近江鉄道ゆうグループさんと別件でお会いする機会がありました。琵琶湖周辺の清掃をしていた中でつながりがうまれたのですが、草津川、葉山川といった天井川でレンジャーが初期のころ活動をしていたので、それを使って何かしていきたい。「今はあんなにきれいな公園だけど、実はこんな歴史があったよ」ということも伝えていきたいなど。草津市役所とお話をする機会ができました。そういうことを少しずつ広げていければいいと思っています。</p>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・質問と1点コメントです。 ・今、皆さんから出ている延長線上の話ですが、古い写真を見てまず記憶を呼び起こすためにいいのですが、例えば、全部ではなくていいので、「その場所は現在こうなっています」と比べて、こうなったけれど、それで課題が全部なくなったかという、必ずそうではないので、「何か気にしていることはありますか」と変遷の歴史を。今も草津川の話が出ましたが、昔は桜並木もあり、かわりに高い堤防でとても危険な状態だったけれど、ああいうふうに別のところになりましたねと。トレードオフというか、いいことがあれば、逆にこういうところなくなったということもあります。特に漁業組合とつき合っていると、「昔の瀬田川は浅くてきれいで、水が澄んでいた」とか、そういうところがあって。ただ、治水のことを考えると、今のような状態になった。川だけではなく、琵琶湖から流れてくる水自体の水質の問題もありそのような変化があるのですが、住民の皆さんが課題と思っているようなことを吸い上げる、あるいは、その課題に対して、ごみ集めや、みずから活動している人もいたりするので、何かそういうところへつながるような部分もあるのではというふうな気がします。 ・質問は、計画書の一番下の「活動周知活動」のところで「子どもや家族を中心に、WSBにて周知と河川への興味関心を目指した取り組みを月1度程度」とありますが、例えばどんな方法でイメージしておられたら。月イチという、かなり大変ですけど。頑張ってくださいということですが、具体的に「こんなこと」みたいなことがあれば、教えてください。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。これも大まかに書いたのですが、実際にこのウォーターステーションや南郷のエリアは、週末は多くの家族連れが来ています。私も家が近いのですが、駐車場が満車になるぐらい来場されています。他府県の方が多く、そのほか未就学の子もたちが来ていて、アクア琵琶を見学してもまだ難しい。けれど、水産センターで魚をさわった後で興味を持ってくれているので、それにプラスアルファできるような。例えば簡単な工作はこれまでもしてきて、そのときに写真を見せて「洗堰というのは、実は橋じゃなくてこんな役割があるよ」という話をしていたのですが、計画書に書いてなかったのも、何がレンジャーなのか、自分がボランティア的にしてやっていたのかまじっていたところがあります。それを少し意

	<p>識して、河川レンジャーとして「いや、こういう活動をしている人もいたりとかね」と広げながら。例えば、子どもが工作をして、何かしている間に親御さんとそういう話をするとか、持って帰って、もう少し川や琵琶湖の話もできるようなことをしていきたいなと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月、5月には、「琵琶湖だけで終わりじゃなく、川はつながっていて、実は大阪湾までつながっているよ」と言っても子どもたちはイメージができないので、工作を一つつなぎながら「ここがつながって、大阪湾にまで行っているよ」「関空にも同じ水が流れているよ」というのがわかるようなこともしているので、無理のない程度で。毎月絶対できるかと言われると自信はないが、夏休みや、人がたくさん集まるときにできるだけ、簡単なものでもいいので、話すきっかけづくりや、もう少し興味関心が引き伸ばせるような仕掛けづくりをしていきたいと思ってこういう書き方をさせてもらっています。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。ありがとうございます。 ・委員の皆さん、ほかにいかがでしょうか。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・今のものでいくと、毎月レポートを書きますよね。そういう中身を活動としてどんどん書き込んでもらったらいと思います。 ・一方で、お願いと言うとあれですが、周知できていなかったのが悪いのですが、11月にアクア琵琶が25周年を迎えるので記念イベントを仕掛けています。その前段で、例年やっている7月の水辺の匠で25周年を意識した形をしようと。8月も別のものを考えていますが、11月7日が正式なオープン日で、そこを目指して何かやっといこうかと思っています。今思っているのは、25年アクア琵琶にずっと来てくれている方もいらっしゃいます。この近辺に来ていただいている方もいらして、その方をお呼びして写真からヒアリングができたらいいなと思っています。 ・写真は「利用」や「風景」のようにばらけると言われますが、大きな目的の一つに、事務所の展示も随分変わっているので、アクア琵琶や洗堰の周辺で思い出のネタになる写真を集めて語ってもらうとなど。 ・今、寄せ書きコーナーをつくろうかというようなことを考えていて、アクア琵琶に対する思いみたいなものを。新参者もいると思いますが、「来てよかった」「毎回来ているが、楽しみにしている」、そんなものを書き込んでもらえるものを仕掛けようと思っている一方で、過去楽しく撮ってくれた写真もお借りできたら、より充実したイベントになると思っています。ふだんコミュニケーションをとっておられる方の中でそういった趣旨に合うような写真を聞けるようなチャンスがあったら、それはぜひ取り入れてもらいたいと思います。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、わかりました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・その11月のイベントの日は、7日で固定ですか。

山口	<ul style="list-style-type: none"> ・その日が開館日で、一応そこで何となく決めています。そこをわざわざ外す理由も今のところないので。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・火曜日。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・平日ですが、土日にスライドしたほうがよいか企画の中身の詰まりぐらいを見ながら。 ・実は、今、カレーコンテストの企画や、いろいろと。実際にカレーをつくって展示するのですが、どこかにアップして「いいね」をしてもらった数でランキングするとか、いろんな企画を考えています。 ・確かに平日ですが、あいた日はあいた日で、いいかなと思っています。その前さばき的に7月の水辺の匠をよりメモリアルチックにやっていきたいなと思っているので、その部分でも手伝ってもらえたら助かります。
△北村	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・勝手に言いますが、土日にされるのであれば、11日、12日は外していただけるとありがたいです。一大イベントの予定が。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですか。ずらすにしても、前がいいですね。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・前がいいです。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、わかりました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・こうしてもらわなくちゃということではありませんので。 ・そしたら、今、北村さんから発表いただきましたが、特にこの計画書自体どうこうということはないと思います。各委員の発言も踏まえて頑張って活動を進めてもらえればと思いますので、この計画書で承認するというようにさせていただきます。ありがとうございました。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、次の眞田さんですが、きょうは学校の授業があってということで、支援室が代行していただきます。
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
M池田	<ul style="list-style-type: none"> ・かわりまして、今年度から松尾と一緒にレンジャーマネージャーをさせていただきます池田が眞田さんの活動についてご説明いたします。 ・眞田さんは、去年度の、正式に任命されたのは1月からで、「ラポール（心の架け橋）で創る“みんなが夢中になれる瀬田川”」ということで活動しておられました。 ・昨年度は、瀬田川の周りを自転車で回りながら訪れる方々にヒアリングをおこない、そこから広がった自治会の会長さんや、私ども支援室が釣り人の団体などを紹介しまして、そういった川にかかわる人たちと少しずつ出会っていくような活動をしておられました。 ・それを踏まえまして、今年度どのように活動するかということを計画されました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その中で、昨年度平山委員と話をされた中や、事務所の皆さんとの意見交換会で出てきましたアダプト制度など、地域の川を守っていく方々を支援していくような方法があるということを知り、その制度を彼が勉強し、今後につなげていきたい人に紹介、それによって人がつながっていくという仕組みをつくれたらというふうに考えておられます。 ・ヒアリングについても、少しずつつながってきましたが、その方の瀬田川に対する愛情や、どういう課題を抱えているか、異分野の活動に対してどう思っておられるのかなど深い話を聞くことができなかつたという課題がありました。今年度はそういったことに取り組み、内容の1番にもありますように、瀬田川関係者について最低5団体にヒアリングをして整理したいというふうにもおっしゃっています。 ・そういった方々へのアウトプットとして、例えば「瀬田川LOVE」のような冊子をつくりまして、それを配ることによって信頼関係を築いていきたいというふうに考えておられます。 ・一方、もう一つの課題ですが、現在大学3回生でいらっしゃいますので、4回生になりますと、卒業を控えております。例えば大学院に進学されて、またこちらで活動を続けられるという可能性もありますが、4回生で卒業するという事を考えますと、彼の活動が途中で切れてしまうこともあり、同時進行でそれを引き継いでいく人材をつくっていきたくて思っておられます。レンジャートライアル制度を活用しながら、ボート部の後輩やボート仲間の人たちをつないで、彼の活動を引き継いでいく方を発掘し、彼の思いを伝え、そして彼のネットワークを新しいレンジャーに引き継いでいきたいというふうに考えておられます。以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。本人は不在ですが、委員の皆様、ご意見、質問がありましたら、どうぞご発言ください。 ・平山さんがしていたマップを利用していくと、その対象のところがうまく捕まえられるということもありますが、何年かたつと、人が変わったりするので。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。私が集めたのは主に維持管理にどういうふうにかかわっているかということに特化していて、草刈りをどれぐらいの頻度でおこなっているか、誰がしているという情報でした。眞田さんの活動は、それよりも、「利用」に重きを置いているのかなという印象があります。情報の中身が違うので、関係しそうな方は挙げられますが、活動の内容は眞田さん自身で集めたほうがいいと思います。 ・その一方で、団体ではない個人の利用者が多いということが私の課題でして、個人の散歩、個人の釣りというのは、差し当たって強い思いや主張があつて何かをしているわけではなく、ただ利用しているという方が多いです。その中で、眞田さんの計画書には「団体」と書いてあるので組織とし

	<p>での活動だと思いますが、個人の利用については少し広がり過ぎて把握しにくいのではということをご心配します。</p>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、ウォーキングという方が多い。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。ウォーキングとか犬の散歩が多いです。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・団体としたら、ボート部と漁業組合くらいという。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・やはりボート部が頻繁に上流から下流まで行き来しているという感じ。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・少し違和感があるのは、ボート部やカヌー部は彼がコミュニケーションをとりやすいと思いますが、その方たちの練習以外でのかかわりにどういうものがあるのかなということが気になっています。それ以上でもそれ以下でもないというふうになれば、誰かに何かを伝えたいや、連携したいということが出てくるのかなと思ってまいす。出てきたらいいなとは思っていますが、コーディネーターが必要な場面にならないかもしれないと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・手前の話であれですが、私はよく行っているわけではないけれど、毎月決まったときに瀬田川の横の掃除をしていて、目に見えているところにペットボトルが浮いている、悔しいけど届かない、そういうところで水面を利用している方が時々一緒に活動してくれるといいなと。連携ができると、随分と変わってくる気がしてきて。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。連携が必要な場面は活動されている方から出ることもあると思うので、「こういうつながりができればいいなと思っています」というふうにかヌーをされているほうにつなぐことは出てきそうな気がします。ヒアリングについては、時間が無限にあるわけではないので、焦点を絞ってやると連携の切り口が見えてくるのかということ少し戦略的に行ったほうがいいのかと思います。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・それと関係しますが、連携するということで、昨年の報告も拝見していて、すこし苦労されているのかなという感じがしています。連携が目的になると難しいかなというところがある。連携よりも何か手段、あくまで手段なので、もう少し具体的な対象があったほうがひょっとすると活動しやすくなるのかなと。 ・例えば、ごみのことを割と面接の段階から問題意識としておっしゃってましたので、そういう具体的なことをやるために一緒にやりませんかとか、そういうアプローチを考えてみたらいいのではというふうに拝見して思いました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。確かにそうです。何かそういう具体性がないと、あれよあれよと考えているうちにどうしようとなり、なかなかうまくいかない場合もある。

	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・私も平山さんや大野さんがおっしゃった内容と重なるのですが、1年目の活動は3カ月ぐらいだったと思いますが、聞き取りが浅かったというような反省を踏まえてらっしゃるので、対象があやふやというところと、どういう連携があり得るかというイメージがまだ充分ではないのではないかと。委員のコメントの中でも結構アイデアがいっぱい出てきていたと思いますが、それを踏まえてもいいですし、それも聞きながらイメージを膨らませて、こういうことができないかという想定をしてもらえたらよいと思う。 ・ツールの冊子というのも、漠然としていると、情報を聞いて集めたとしても多分まとめ切れないような状況になるのではと思います。ツールにするもののイメージも踏まえて、ヒアリング項目を立てて精査するというか、準備をして進めていけるように支援する、ミーティングのときにチェックするなど、そういうふうな形で進んでいくと効果が上がりやすいのではと思いつつながら内容を拝見していました。
	△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・少し補足説明ですが、工程計画の3つ目の「活動の継続性・連続性の方策の検討」というところに「引継ぎ項目」という箇所があります。これは、先ほどマネージャーから説明があったように、本人に聞くと、本人は学生なので、できたらクラブの後輩に引き継ぎたいと。クラブの伝統になるよう、レンジャーを出すぞという気持ちがあり書いていますが、まさに今ご意見をいただいているように、活動のテーマ性、連携のテーマ自体もまだ模索段階の中で、いきなり何かを引き継げるというところに行くのかなという懸念を事務局としては持っています。 ・あともう一点、お伝えしたいことが、9月から12月の間、学校の研修があり、外へ出たのフィールド活動がほとんどできないという実情にあると聞いています。それで大丈夫ですかと支援室から聞いたところ、それまでにフィールド活動をして、その間はテープ起こしや、ツールの作成をすることでめり張りをつけて活動されたいという趣旨で返ってきました、最終この計画書をご提出されています。めり張りがつき活動として認めただけということでしたら、そういう審議結果でも結構ですし、そこが中途半端というか、不十分であれば、その都度状況を報告させていただいて、あるいは、中間報告が9月ごろにありますので、そのタイミングでそれまでの活動状況を見て、引き続きできそうかをご判断いただくなど。 ・少しそういう懸念事項があるということをお知らせさせていただきたいと思つています。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。その工程計画については、今、事務局から報告があったとおりで、9月最初から12月終わりまでぐらいの感じで4カ月。
	△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、そうだと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんからのご発言や今の事務局の説明を聞いて、一つは、この計画書は

	<p>これとして、本人はレンジャーであるし、9月を迎えるに当たってそういうふうに進めますよということなので、今出たような、より具体性のあるようなことも補足的にアドバイスとして伝えてもらって。時期が時期だけに、計画書をまた出してもらって、それを承認とかいうことではなく、これはこれとして。あとは本人が「そうしましたら、こういうことをしますよ」ということであれば、それを追加するような格好で承認ということにしてはどうかと思いますが、委員の皆さんはいかがでしょうか。9月から12月の4カ月間がそういう状態になりますよということなのですが、そこは。</p>
<p>山口</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月で一度区切りましょうか。 ・引き継ぎ云々という視野が入って検討だけしているので、下手なコンサルしかやってないようにしか見えないので、すこししんどいかな。引き継ぎ云々と言い出して、ボート部でとなるんやったら、レンジャーじゃなくて別の制度を。あくまでレンジャーは個人、レトロカフェがしている協力団体、あちらにシフトしてもらったほうがいいのではという気がします。 ・平山先生がおっしゃったように、利用者というのが、「ボート部の方を束ねます」くらいの勢いで、水草の除去を一緒にやりますとか、1月から来たので、多分今年の9月にI V U S Aと一緒に400人で刈ったのを知らない。ああいうのに積極的にボート部を統率して行きますよと言ってくれたらいいのですが、それができないのならしんどいと。今のところは、9月以降は認められない形にしたほうがいいと思いますけど。 ・彼は学生で若いのに、冊子とか、今時じゃない観点です。うちからすると、僕らなんかよりも全然明るいSNSとか、そういうツールで、ボート部の連中をラインで全部つなげますよなど、こういった意見を拾ってきますよなど、そういうふうに展開してくれたら我々としてはかゆいところに手が届いてうれしいですが、そういう方向には向いてくれないのかなと。今はもう6月に入ったので、6・7・8月の3カ月だけでも。何かそういう仕込みをやって、9月以降それを、例えば学校で忙しいのであればオンラインだけでもするとか。そういうのならまだ考える余地はあるが、現状では9月以降は。もう一度再考いただいたほうが。一応公金を支出する以上、しんどいような気がしています。 ・ただ、前に見たときよりはまともになってきているので。前は引き継ぎしか出てなかったもので、これはさすがにダメかなと思いましたけど。すこしは考えてくれていますが、どこを主眼に立ち回って本当にプラットフォームをつくるだけでも価値があると思います。それをするために頑張るとか、何かそういうのでない限り。これでは何をするかわかりません。アダプト制度も「勉強します」ですね。それでは実利が上がらない気がするので、8月まではそういったことをトライアルしてもらって、中間報告の際

	<p>に、8月までの知見を得て、改めて9月以降の展開などを。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことしも、いつになるか未定ですが、IVUSAと水草を取る活動をしようと思っているので、それに合わせて来ますや、何かそういうことが出てくれば後半もいいかなという形にしてはどうかと。きょうは8月まで活動してもらおうという形にしたらどうかと思います。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の任期ということなので、今年度末までが任期だと思います。卒業のタイミングと重なっているというのは、それはそれとして、任期は今年度末までということになる。今の段階では、成果として具体的な姿が見えてきて、今年度末にどういうものを出すのかとイメージを描くのは難しいのかもしれない。社会経験や、他の団体や大人とのつき合いや、いろいろなものを踏まえてレンジャーは答えを出していらっしゃると思うので、そういう部分の経験も活動に必要な要素と考えられます。そこまで一気に期待してしまうのは早いかもしれませんが、「こういうものを1月・2月・3月のまとめの時期にイメージします」というのが見えていると、この1年間の予定もいいのかなという気がします。こういうぼやっと目標があることが、下半期が余計あやふやに感じてしまうのかなというふうに思うところです。1年間の予定を見ていて、上半期の活動の中でそのあたりが見えるように考えながら取り組んでもらう必要があるかなとは思いますが、そこを踏まえて9月以降どう活動するかというのは、考える必要があるのかもしれない。あまり外に行けないという自分の状況を踏まえた活動計画にされているので一応配慮は感じますが、6・7・8月中にそんなビジョンをつくってもらえたらいいというふうに思うところです。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・今、指摘させてもらったことを踏まえて活動してもらって、中間報告のときに、それを下半期に、例えばオンラインだけでもやりますとか、そんな形で見せてくれたら後半もオーケーみたいな形で、暫定な形をとらせてもらえたら助かります。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・活動休止にするという制度しかないと思います。月単位なので。1年承認しかないと思います。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・現実4カ月拘束されて、ほぼ川に近づけないというのは、それはそれで制約があるんですね。「月1回、日曜日でも来れへんのか」というところまで詰めていくのもあんまり生産性がよくないので、オンラインや何でも、4カ月だったら4カ月拘束された中で何か成果として見せられるものができますよというのであればよしという形にしていきたいと思いますが、現状これだけでは。本人きょう来てないので。そこを踏まえて中間報告を目指してもらおう形でどうでしょうか。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・支援室のほうは時期的にどうですか。本人さんにうまく伝えられて。
△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨は今いただいたご意見でよくわかりますので、活動計画自体はいわゆる「条件付きの承認です」という形でしていただくのかと。ただし、中間

	<p>報告時点できょうおっしゃられたテーマ性やツールが具体化されていないと、このまま中途半端な活動で9月以降されてもより具体化しない環境に陥ってしまうので、趣旨は本人にお伝えして、そういう形での暫定承認をいただきましたという報告をさせてもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ、支援室を通してその辺は一緒に見つけていくというか、形にしていくところは大いに支援させてもらいたいと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。考えてもらって、8月には具体的な成果があり、それを踏まえた上で後の活動をどうするかという方向性を示してもらおうと。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。方向性を我々に見せてもらおうと。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そしたら、そういう暫定承認という形。言い方はどうですか。制度的に「こういう場合はこう言う」というふうに決まっているとか、何かありますか。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・とくにないと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ないですね。
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース・バイ・ケースです。基本、承認は承認という形をとっていただく、今まであったのは、「ただし、こういうことに留意して進めてください」というコメントをきちんとお伝えいただくことが大事ではないかなと思っています。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。その中に今回は「中間報告の時点で」ということを加えてもらうことにして。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の中間報告は10月に予定されていると思いますがそうであれば、休止するのであればその前に判断をしないといけないと思います。本人が休止を希望するかわからないですが、私たちがこのまま継続するのは難しいと判断した際に手続き上「休止してください」と言えるのでしょうか。続けてほしいと思いますが、「これでは」という今のような議論になったときにどういう手続でそれができるのか。集まらない状態でできますか。
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は集まっていただくことが大原則だと思いますが、ここ二、三年委員会の開催回数自体も年3回ということで運営している関係上、どうしてもという場合はメール等のやりとりで承認させていただいているケースがあります。結構重要なテーマなので、今のレンジャー活動が継続かどうかということ自体、メールでのやりとりということは少し問題があるのかなと思います。 ・時期に関しては、後ほどご説明する内容ですが、例年9月から10月ぐらいですので、そういう状況を踏まえて少し前倒しするというのもバリエーションとしてはあるかなと思っています。眞田さんが9月のどのタイミングから動けなくなるのかについては我々も情報を聞いて、日程の調整をさせていただけたらと思っています。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に来てほしいですね。

中谷	・はい。やはり聞かないと。本人が居ない段階で、これだけ見て説明を聞いても、それはすこし。
山口	・9月に入って、向こうが勉強のマジモードに入っているときに幾ら言っても仕方ないので、その前に。
北井	・研修がどういう状況かわかりませんし、中間報告にお越しになれないかどうかともわかりませんが、例えば、以前にはビデオ中継的でやり取りをしたこともありました。
中谷	・テレビ会議をするのですか。
北井	・すこしでも質疑ができれば、よりいいのではと思います。
中谷	・眞田さんが実習に張りつけというような状況になるのなら、例えば9月のうんと早い時期に集まる機会をセットできるのであれば、それはそれでいいと思いますが、その辺も含めて、一回時期的なところを検討いただけないでしょうか。
△畠中	・はい、わかりました。
平山	・承認や、手続に関しては私もそれでいいです。 ・別の観点からですが、山口所長がおっしゃっていたことに違和感があって、私たちは、あくまでも眞田さんが立てた計画で実施するということが、アドバイスやこういう考え方もありますよということはお伝えすると。もちろん、事務所としてやってほしいこととか、こういうふうにかかわれないかというご提案をしてもらうことはいいのですが、それをしないからといって活動を認めないということではないと思います。そういうことを活動を始めてすぐのレンジャーに強く言ってしまうと、これをしなきゃいけないのかなというふうに思ってしまうという心配があるので、強く言い過ぎず、いろいろな活動の方向性を試しながら見守る立場でいたいと私は思っています。
山口	・そんなところと、僕のつらいところはお金を払っているということなのでそこだけです。
平山	・もちろんそうです。それであれば、活動1年目のレンジャーができそうな、例えば声を集めたや、活動したことが文書で説明できるということで大事なところになってくると思います。ただ、その内容に強く介入するということではないと思います。また、その点はレンジャー自身も理解しつつ活動しなきゃいけないのかなと思います。
中谷	・はい、ありがとうございます。そうしたところのニュアンスも含めて支援室のほうでまたお伝えいただいて。 ・そしたら、眞田拳奨さんの計画についてはその辺にさせていただきますでしょうか。
△畠中	・はい、承知しました。

	中谷	・それでは、三方の計画についての審議を終わります。
	平山	・すみません。私がいただいた情報を見逃しているのかもしれませんがレンジャーの渡辺さんはおやめになったのですが。
	北井	・継続の意思で面接に来られなかったので、任期終了で終了という形です。
	平山	・あのタイミングがそうだったのですね。ありがとうございます。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他 (1)今年度の委員会運営について	中谷	・そうしましたら、「その他」として「今年度の委員会運営について」ということで。事務局から、スケジュールの件、お願いできますか。
	△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、お手元の資料3をごらんいただきたいと思います。今年度の年間のざっとしたスケジュールリングをご理解いただくために出させていたでています。 ・本日、6月に今年度初回の第51回委員会を開催させていただいております。2回目ですが、年度の中間ということでこの資料には10月と書いております。今の真田さんの活動時期のタイミング、もちろんほかのレンジャーのご都合等も踏まえまして、9月の実施が可能かどうかということも含めて、時期については調整させていただければと考えております。また、3回目の第53回につきましては、例年2月末から3月上旬ぐらいに開催していますが、3月上旬ぐらいにしますと、最後の成果報告をしていただいた後、いつもその取りまとめた結果がどうかということ委員の皆さんと共有する時間がない状況になっています。そういうご意見を委員会の中で賜ったこともありますので、例年より一月ぐらいタイミングを早めまして、1月末から2月ぐらいに最後の成果報告をして、そこの意見を踏まえて最後の年間活動のまとめをするというような形で今年度は進めさせていただければどうかと考えています。 ・また、備考欄には、これは委員会行事ではないですが、例年開催しております河川レンジャーと河川事務所の職員の皆さんとの意見交換会ということで、今のところ、7月と11月ぐらいに予定しています。7月については、河川レンジャーの活動計画を事務所の皆さんと共有しまして、どういふ観点で進めていったらいいかというような意見をいただくという形、11月も、中間報告を踏まえながら、事務所の皆さんとどう連携していけばいいかというような観点から意見交換会を開催させていただきたいと思っております。 ・以上が補足説明を含めた今年度のスケジュールに関するご説明です。
	中谷	・ありがとうございます。2月ごろの設定は、やはりそれぐらいの時期のほうがいいなと思って聞いておりました。特に10月分についても先ほどの議論の中の事情で前倒し的なことになるので、そういうことでいいのかなと

	<p>思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様、よろしいでしょうか。そうしましたら日程調整はしてもらいつつ、この辺をめがけてやるということにさせていただきます。よろしくお願いいたします。
山口	<ul style="list-style-type: none"> 1つ。最後の委員会ですが、思いつき中というか考え中ですが、年度の報告会に加えて、継続を目指すのであれば、次年度どういうふうに展開していくかということを見る場にしたいなと思いました。 先ほどの平山委員の意見にもかかわってきますが、レンジャー制度自体は全国一緒ですが、琵琶湖的な運用をしてきた面があって、若干近隣の事務所とは温度差があります。今回疑問に思ったのが、計画がきょう承認なのに4月・5月に活動をしているというのはねじれている。ここはあるときに整理したほうが良いと思います。 我々は意見を好き好んで否定するわけではなく、「こうしてくれたらうれしい。助かる」という場が欲しので。それを埋めるためにまた中間でうちの事務所の職員と意見交換をざくばらんに行ってもらっていますが、それらを踏まえて、一生懸命やってもらったことをどうして色をつけて格好よくするかという場が一、二月でもいいですし、プラス、きっちり計画書までじゃなくていいですが、次年度以降はこうやって展開していきたいという方向性だけでも。正式なものはまた年度当初でもという形いいかもしれませんが、それぐらいはないと、4月・5月は何に基づいて行動しているのかと、行政的につらく、そこを穴埋めしたいと。ざくっとですが、今はそのように考えています。時期は別に合わせやすい時期で構わないですが、継続されるのであれば、要素として今年度の報告プラスアルファを見せていただきたいと思います。
平山	<ul style="list-style-type: none"> この報告書の中には今年度の課題をまとめて次年度どうするかということを考えるための材料が出てくると思いますし、そういうふうに発表していただいたレンジャーもいると思います。次年度の活動についてもここで見せていただくということがいいように思います。
山口	<ul style="list-style-type: none"> 方向性自体はいいのではというふうにさせてもらえると、お互いすっきりしていいのではという気がします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> そこの意味はよくわかります。確かに、今やっていて、もう6月になっているので。
山口	<ul style="list-style-type: none"> 日付はさかのぼれないので、そこだけが若干気になって。 多分、それをした上で6月はより詳細なものが見えてきているはずなので、字面を追うようなそもそも論、建前論よりは、「何か困っていることはない?」「4月・5月やってみて、こういうところを苦労しています、事務所に協力欲しい」「先生、いいアイデアありませんか?」と言う場になれば、活動しやすくなるのではないかと考えております。

	中谷	・わかりました。では、そのようにしましょう。それはもう委員の皆さんもご異論ないところだと思いますので。
	山口	・ありがとうございます。
	中谷	・事務局のほう、よろしいでしょうか。
	△島中	・はい。
	中谷	・ということで、一応スケジュール案とその中身についても今お話のあったとおりなので。
	△島中	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。今のご意見に関して、これは必要ということでのご意見なので、どうするかはまた今後検討させていただきたいと思っています。 ・任期は2年ですが、年間活動計画はいつも1年間で出しているのので、例えば、2年目は少し粗くてもいいので2年分を想定して出していたときに、1年目の年度末で2年間つくった計画書に対してどうかということをおっしゃっていただいたら、初めから2年を通した計画になるということもあるかもしれませんし、やり方が幾つかあろうかなという気はしています。 ・2年で切れますので、1年目を終了するレンジャーさんと一旦年度が切れるレンジャーが必ずいらっしゃいます。年度が切れるレンジャーに関してはもう一度新規で応募していただきますから、そしたら今度は応募資料自体を年間計画に近いようなものを初めから出していただくとかいうやり方でいけば、実質的に今おっしゃっていただいたようなことが達成できるのではないかなと少し想像しながらお聞きしていましたので、そういうご提案を。
	平山	・今のに関連して、どこまで公開で、どこまで非公開にするかだけのことのような気がしています。同じように発表していただいて、継続をするかどうか決めるタイミングの人は審査だけ非公開にするというやり方もありますので、できるだけ皆さんに聞いていただいたほうがいいかなと思います。
	中谷	・そうですね。ありがとうございます。
	△島中	・わかりました。ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、テーマはそこまです。では、事務局のほう、よろしくお願ひします。 ・あと、いつものとおり、傍聴の方でお話がという方がおられましたら伺いますが、おられないでしょうか。 ・そしたら、一旦公開の審議はここまでということにさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
------	-----	-----------

7. 閉会	△畠中	<ul style="list-style-type: none">・そうしましたら、以上をもちまして、第51回河川レンジャー制度運営委員会を閉会させていただきたいと思います。・引き続きまして非公開審議を行いますので、委員の皆様と事務局以外の方はご退席をいただきたいと思います。ありがとうございました。
-------	-----	--